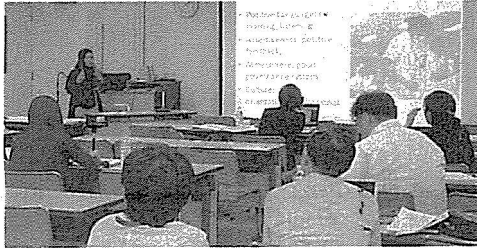


4カ国の医師ら学ぶ

群馬大でチーム医療研修



1週間の研修のまとめを発表する参加者

世界保健機関（WHO）の協力センターとしてチーム医療教育に取り組む群馬大の多職種連携教育研究研修センター（前橋市）は、8月26日～9月1日の

1週間、海外の保健医療教育分野の専門家を対象に研修を行った。トルコ、インドネシア、モンゴル、韓国の4カ国から医師や看護師、歯科医ら計6人が

参加。同大教員による講義や演習、附属病院の見学を通じ、チーム医療の現場や教育手法について学んだ。最終日の1日は参加者がそれぞれ研修のまとめを発表した。「医師や看護師、薬剤師らの役割や責任が明確化されていることが、職種のスムーズなコミュニケーションにつな

がっているのではないか」「電子カルテは情報共有に効果的だと感じた」など感想を述べた。

同大は昨年7月にWHO協力センターに指定され、多職種連携教育の普及や研究に取り組んでいる。